

早川町 住民対話集会 議事録

開催概要

日時	令和 7 年 10 月 15 日(水) 午後 3 時～5 時
場所	早川町民会館1階 集会室

1. 深沢町長によるまちづくりに対する方針説明(要旨)

① 人口減少とまちづくりの目標

- ・ 昭和 35 年には 1 万人を超えていた人口が、現在は大幅に減少。旧六か村の合併当初(69 年前)から既に過疎と高齢化との戦いが始まっていた。
- ・ この流れを止めるのは困難であり、今後は人口の多寡よりも、残った人間がどうやってこの地域で「幸福度」を高めながら最後まで暮らしていけるかに焦点を置く。
- ・ 町民に寄り添い、町民を政策の中心に置いて行政を進めることが役場の基本姿勢。

② 地域課題と具体的な取り組み

- ・ 地域の遅れ: 雨による断水、通院の困難さ(高額なタクシー代)、通行止め、店舗の少なさなど、当たり前なのが欠けている現状を認識。
- ・ 地域資源の活用(空き家対策):
 - 空き家を一つの資源として捉え、早期に活用する必要がある。
 - 空き家バンク機能が弱体化しているため、枠組みを再構築したい。
- ・ 子どもの教育(学校の維持):
 - 学校は地域を守る存在であり、できるだけ学校を維持したい。
 - 小規模校の特色を活かした学習環境(例:北小の BEANS)を充実させ、PR していく。
- ・ 産業の振興と鳥獣害対策:
 - 起業家への補助制度を見直し、援助を増やして充実させる。
 - 遊休農地や林地の放置が野生動物の住処となり、獣害の発生リスクが高い。農地をなりわいとして使える状態に持っていく必要がある。

- 医療体制(病院):
 - 飯富病院は経営が悪化し、身延町・南部町との3町で検討中。
 - 最終的には病院機能ではなく診療所として機能せざるを得ない状況だが、町民の命と安全を守るため、今までの病院機能に近い診療所化の方向で検討する。
- 災害対応:
 - 去年の能登半島地震と同じく、早川町も孤立化のリスクが高い。
 - 最も怖いのは情報の孤立化であり、その防止に向け、令和8年度を目安に防災計画の見直しを進めている。
- 雨畑ダムの土砂問題:
 - 現状は一旦解決を見たが、上流部にかなりの土砂が堆積しているため、今後も日本軽金属、国、県と協議し、土砂の排出について対応していく。

③ 持続可能な財政基盤の確立

- これらの政策を実行するため、持続可能な財政基盤の確保が最重要。
- 現在、行財政改革を進めており、55の事業に絞り込み、補助金、委託料などを中心に見直し作業中。
- 決算30億円はリニア関連を含んでおり通常の予算規模(約20億円)と異なる。今後は財政が先細りするため、使える財源を確保していく。

2. 住民との意見交換

町長の説明を受け、参加者との間で以下の意見交換が行われた。

① 観光資源の活用と町営施設

住民の意見・質問	行政の回答・見解
観光ビジョンを見直す際、昔の一村一拠点施設の活用法を検討してほしい。町営施設(ヘルシー美里、ヴィラ雨畑など)と民間施設が連携し、町全体を博物館とする「フィールドミュージアム事業」の理念を復活できないか。	昔の構想は、外部の賑わいを地域に入れることを目的としたが、現状はヘルシー美里やヴィラ雨畑が地元の「心の拠り所」となっている。今後はその観点も踏まえた改築や運営を考える。観光ビジョンの見直しは必要であり、現場の意見を求めている。

住民の意見・質問	行政の回答・見解
	観光ビジョンは今年度末で切れ、来年度にかけて観光協会等と連携し、新しい時代の観光のあり方として策定組織を編成する予定。

② 空き家対策と医療・移動手段

意見・質問	行政の回答・見解
崩壊寸前の空き家(相続人不在など)への対策は？防災上の問題がある。	個人の財産のため、行政の代執行のハードルは高い。解体補助金(現行 50 万円)を物価高に合わせた金額に見直しを検討したい。
高齢化で免許返納者が増える中、車がないと生活できない。飯富病院から中央病院などへ検査に行く際の移動手段(タクシー補助など)を増やしてほしい。住み続けられるまちづくりにならない。免許返納者の意見を聞く場も必要。	福祉タクシーの運用規定を見直し、セルバでの買い物などにも利用を拡大できないか検討したい。移動手段については、町営バスだけでは賄えないため、福祉バスや買い物タクシーなど、幅広く検討していく。
	外出支援サービスとして、県内病院や身延のデイサービス利用時のタクシーは利用可能。ただし、買い物が目的の利用には現行サービスは使えないため、公共交通含め検討が必要。
町営バスは夏と冬で車両サイズを変えるなど、利用度に応じた運用を検討すべき。	更新期には適正規模なバスを導入する。運行便数も 1 便程度増やすなど、利便性の向上も検討したい。

③ 地域のインフラと産業振興

意見・質問	行政の回答・見解
地域おこし協力隊制度を活用したキノコ栽培支援に感謝。	お礼を述べた。
青崖隧道の川原に土砂が過剰に堆積している。大雨で荒倉の淵に影響が出ないか懸念。	県により土砂の半分程度が除去済みで、護岸補強も進んでいる。稼働を開けているため、当面は問題ないと考えているが、引き続き注意する。
林道を不測の事態（県道の寸断など）の迂回路として、通れる状態に整備しておいてほしい（通行止めは維持で可）。	重要な迂回路であることは承知している。複数箇所で落石などの危険性があり、単純に修繕は難しいが、予算と財政局と協議し、危険箇所の調査・洗い出しと対応を進める。他町村長と連名で県林道の早期開通・復旧要望書を提出するなど、迂回ルート確保の動きは始まっている。

④ 行財政改革と起業家支援

意見・質問	行政の回答・見解
行財政改革の進捗について、目標区切りや中間報告を町民に目に見える形で示してほしい。インフラ（水道本管、橋梁など）の整備に必要な資金確保のためにも推進を期待。	現在、約 50 事業について目的や方法を慎重に検討中。来年度以降、結果を示しつつ、徐々に幅を広げていく。毎年何らかの形で公表していくことを考えている。
起業家育成資金（1 人当たり 70 万円限度）は少なすぎる。外からも手を上げる人が出るよう、資金の上乗せをすべきではないか。	70 万円では物価高や辺地での起業には少ないことは承知しており、空き家解体補助と合わせて、財政状況を見ながら見直しを検討する。

⑤ 町議会議員定数とジオ資源活用

意見・質問	行政の回答・見解
町議会議員選挙の無投票が続いている。現状に合わせて議員定数を減らし、選挙で選ばれるようにすべきではないか。報酬を増やして負担増をカバーすることも検討してほしい。定数を減らすプロセスも知りたい。	定数削減は法に基づいた手続きが必要であり、やったことがないため、すぐに答えられないが、今後勉強させていただく。
断層資源の活用について、上流研のスタッフ不足で動きが鈍っている。役場として、今後どんな事業を考えているか。	断層(伊豆構造線)は国指定の文化財であり、一般向けには構造が難解。今年、文化庁職員を招聘し、素人にも分かりやすくするための加工・解説方法を検討する。
	新たな観光資源として、砂防ダムの見学ツアーを国土交通省の協力の下で上流研に探ってもらうよう要請した。これが人気を得られれば、観光協会と旅行業者と連携し、商品として売り出せないか検討する。上流研の人員確保も進めている。
上流研は資源の発掘・保存、観光協会がその活用と役割分担すれば、活用が進むのではないか。役場と相談しながらジオ資源活用を進めたい。	観光協会の検討を支持し、振興課がサポートする。

⑥ 関係人口と地域内雇用、安全対策

意見・質問	行政の回答・見解
「関係住民登録」制度を推進し、町外の応援団的な関連人口を増やすべき。宿泊割引などのインセンティブも有効。	以前の「ふるさと町民制度」が消滅した経緯があるが、関係人口として注目されるなら新たな制度を検討したい。

意見・質問	行政の回答・見解
高齢者や引きこもりがちな住民のために、「仕事バンク制度」を創設し、地域内での仕事の助け合いや雇用を創出すべき。	町内版のシルバー人材センターのような仕組みとして、需要と設立が可能であれば検討したい。
各集落で防犯カメラの設置が必要。盗難などの犯罪抑止力になる。	以前、区長会で要望があったが、設置者・管理者や、カメラを望まない住民がいるなど難しい問題がある。集落の自治会申請で利用できる補助金制度がある。
	人が少なくなった早川町にとって抑止力としての効果は高いと考える。道路に向けての設置には基準があるが、警察からの補助金制度や別の補助制度の活用も検討し、要望のある区には対応していきたい。